

新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮して行う 「オンライン全校研究会（研究授業）」

B:校内研修Ⅱ型（講師設定型の研修）

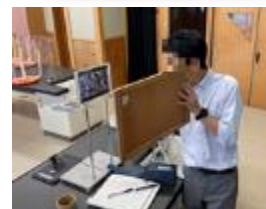
このような教員の姿が生まれました！

- 児童生徒が「どうしたら分かりやすいか（使いやすいか）」を意識して議論し、作成しました。
- マニュアルにまとめることで、誰でも一律に授業や会議を実施することができました。

オンライン授業マニュアル

ICT 活用推進担当と校内の先生方が、黒板の映り方や児童生徒とのやりとりを想定して、カメラテストをしたり、協働学習支援ツールを使っての双方向のやり取りの確認をしたりして、マニュアルとしてまとめる。

- ・黒板のどこまでがカメラで映るのか分かるようにあらかじめ線を引いておくなど、確認したことをマニュアルにまとめる。
- ・話す声の大きさ、提示資料の映り方、協働学習支援ツールを介してのやりとりのテストを行い、授業のイメージをもつ。



マニュアル作成のポイント

- ひとまず双方向のやりとりができる「基礎編」と画面共有や複数アプリを使う「応用編」に分けて編集する。
- 先生役と児童生徒役に分けて、テスト配信をしながら、修正点や改善点をまとめ、マニュアル化する。

オンライン研究授業参観・授業研究会マニュアル

教室内で参観できる人数を制限しても、別会場での授業参観を可能にする。

- ・カメラ①：背面から全体を撮影し、配信する。
- カメラ②：児童生徒のノートやグループ交流の発言などを撮影し、配信する。

- ・別教室では、
大型提示装置にカメラ①の全体像を映す。
手元の個人端末にカメラ②の映像を映す。

各会場で授業研究会のグループ討議を行い、オンライン会議システムで配信する。

- ・小グループごとに教室を分け、討議を行う。全体交流と指導助言はオンライン会議システムを使う。
- ・使用するカメラ、マイク&スピーカーなど必要な機器について、設置方法や設置場所などをマニュアル化しておく。



マニュアルの管理および共有について

- オンライン授業等の進め方については電子データでマニュアル化し、全ての教員が共有することで、常に最新版のマニュアルが手元で閲覧できるようにする。